

身勝手な自分を 変えてくれた信仰。

沼田教会 岡村浩延さん

岡村さんは平成7年、内装業の会社を設立。取引先、職人にも恵まれ、ほどなく経営は軌道に乗った。ところが、業績が上がると傲慢な気持ちが生まれ、宴席やゴルフの接待に明け暮れた。作業現場を疎かにし、家庭をも顧みなくなっていた。そして、会社設立から約12年が経った頃、折からの不況のあおりを受け、気づけば仕事も職人も離れていき、倒産。半ばヤケになりかけていた岡村さんの話に耳を傾け、すべてを受けとめてくれる仏教を共に学ぶ仲間が存在が転機となり、過去を振り返る。どんなときも添い続けてきてくれた妻や家族にどれほどつらい思いをさせてきたことかと、自分の愚かさを恥じ、心を入れ替えた。そして、いつも心穏やかに過ごし、「まず人さま」と、相手の立場に立って接していく実践を重ねる。すると、人間関係が良好になり、家族の笑顔も増えた。「私の精進は始まったばかり」と岡村さんは穏やかな笑顔で語る。



心の隙間を埋める

私たちは、欲や怒りをうまくコントロールできないがために、思わず軽はずみな行動や悪いことをして、よけいな苦しみを背負いこむことがあります。

そのようなとき、私たちは「つい魔が差して」といつたりしますが、その「魔」は「人に害を与える鬼類」とか「人の心を迷わせ、乱し、修行を妨げるもの」といわれます。ところが、幸いなことに、法華経の「陀羅尼品」に「陀羅尼を得たならば、餓鬼のような鬼どもが人の弱点をさがしてつけ入ろうとしても、つけこむ隙が見いだせない」とあります。餓鬼とは食欲の象徴ですから、あれも欲しい、これも欲しいと貪る心が起きかけても、「陀羅尼」を得れば、その心が暴れだす前に制御できるというのです。

もう少しわかりやすくいえば、「陀羅尼」とは、それを唱えれば、心のなかで動き回る貪りや怒りや自己中心の思いを抑えて、自分のなかにある仏の心をはたらかせる力をもつ、呪文のような言葉ということでしょう。では、自分にとっての「陀羅尼」とは——それを考え、会得するのをもたまた、心の隙間を埋める助けになるはずで